

## 令和7年知事表彰対象者功績一覧

### ○団体表彰 14件

#### ・一般業務の部(10件)

表彰対象者	功績内容
1 関西本部、大阪・関西万博に関係した全ての所属	<b>全庁をあげた大阪・関西万博における関西パビリオン運営及び国内外への発信</b> 大阪・関西万博において、関西パビリオン鳥取県ゾーンの出展、サンドアライアンスによる万博外交、砂ンプラー、とっとリフェス、鳥取県ゾーン貸切企画、砂の持ち帰り等の各種イベント・企画を次々に打ち出し、令和7年4月13日から10月13日までの期間中、鳥取県関係イベント全体の来場者は約58万人(うち、鳥取県ゾーン来場者数は約46万人)となり、メディア露出の広告換算額は15億円を超えるなど、高い集客・情報発信効果を生み出した。 「大規模イベント運営の『達人』育成プロジェクトを通じて派遣された若手職員をはじめ、所属を超えて多くの職員がパビリオン運営やイベント開催に関与するなど全庁をあげて万博の成功に向けて取り組んだ。 また、河森正治氏プロデュースのシゲネチャーパビリオンとの生物多様性の回復に向けた連携協定の締結、鳥取県産業展示コーナーにおける県内事業者の優れた技術・製品のPR、万博のために来日された海外のビジネスキーパーソンとの新たなネットワークやビジネスマッチングの創出、生産団体や小売店と連携した「食バラダイス鳥取県」の魅力発信、障がいのある方の文化芸術の発信、さらには、「とっとリアルパビリオン」と称した県内観光地への誘客の取組による観光入込客数の増加等、万博という数十年に一度の貴重なチャンスを最大限に活かして大きな成果を挙げた。 その他、若手職員で構成されるSNS「中の人」プロジェクトチームは、大阪・関西万博期間中に各種SNSで600件を超える情報発信を行い、同時期の広報課Xの約2.5倍となる合計約1,100万ビューを獲得し、いくつかの「バズり」を生み、効果的な情報発信によって鳥取県の存在感を高めることに寄与した。
2 国際観光課	<b>日台観光サミットin鳥取の成功と国際定期便のデイリー化及び就航の実現</b> 台湾市場へのプロモーションや台湾チャーター便の就航実績を重ね、令和7年5月29日の米子台北便就航を実現させた。また、同年5月29日～6月1日に「2025年台観光サミットin鳥取」を開催し、台湾の観光事業者等と持続可能な観光や双方交流の発展に向けた議論が行われたほか、県内各地の観光地を巡るエクスカーションや交流会を開催し、台湾旅行会社やメディア等との関係が強化され、台湾での本県知名度が向上した。米子台北便促進就航以降の台湾からの宿泊者数は顕著に増加している。 また、令和5年10月に週3便で運航再開した米子ソウル便は、高い搭乗率から令和7年3月に週5便に増便され、さらに、搭乗率に加えて韓国の航空会社や旅行会社、山陰両県の関係団体等と連携した継続的なインバウンド・アウトバウンドプロモーション等が高く評価され、同年12月23日からは就航以来の悲願であったデイリー運航が実現した。
3 危機対策・情報課及び災害対策本部事務局	<b>全国初の複数県で運用する総合防災システムの導入と実動機関と一体となった災害対応態勢の構築</b> 令和6年能登半島地震の教訓を踏まえ、災害時に県、市町村、関係機関が保有する情報の一元的な集約・共有や、気象・被害等の各種情報を地図上に表示させて視覚的に把握しやすくすることによる迅速な意思決定の支援、住民の早期避難や迅速な救助活動を促進するためのレアラート、トリビーメール等の情報発信等を一元的に行なうことができる総合防災情報システムを、広島県と連携して全国で初めて複数県で運用を開始した。本システムは、災害時の自治体間の協力と連携を円滑にした点が評価され、「2025年度グッドデザイン賞」を受賞した。 また、災害対応の中核となる災害オペレーション室を整備して災害対策本部事務局と自衛隊、警察、消防等の実動機関が一体的に活動し、情報共有等が円滑にできるようにした。これに合わせ、新たに実動機関も参加する図上訓練や定期的な資機材設営訓練を開始するとともに、大型輸送ヘリ、ホバークラフトといった空・海からの活動拠点の設定等も含めて災害初動時の対応を整理した「鳥取県災害初動対応計画」の策定及び検証のための実動訓練や、初のドローン・レスキューユニットの官民合同訓練等を実施し、平時からの実動機関と連携した災害対応態勢を強化した。
4 美術館	<b>県民と歩む、新しい美術の拠点ー鳥取県立美術館の挑戦</b> 約1万点の美術作品等を県立博物館から大移動させ、開館記念式典及び開館初年度企画展の着実な準備を行い、円滑に令和7年3月30日の県立美術館開館に繋げた。企画展では、国内外の優れた作品と鳥取ゆかりの作品を関連付ける工夫を施し、郷土ゆかりの作品に全国の耳目を集めめる契機をつくり、これらを主力として、開館から半年を待たずに同年9月12日に年間目標の利用者20万人を達成した。 また、新設した県民ギャラリーでの県民主催の作品展開催、子ども連れ優先の時間帯設定や障がいのある方向けの鑑賞会開催等により、幅広い県民が美術に親しみ、誰もが安心して鑑賞できる環境づくりを行うとともに、「アート・ラーニング・ラボ」を拠点として、美術館職員やボランティアスタッフ、地域住民等が協働し、対話鑑賞やワークショップなどの多様な教育普及プログラムを企画・実施して、「アートを通じた学び」の支援を行った。 さらに、観光拠点としての魅力発信やツアーコース・誘致を進め、地域のイベント等に積極的に協力してにぎわいづくりや活性化にも寄与している。
5・人権・同和対策課 ・デジタル改革課	<b>インターネット空間のリスクから県民を守るための取組</b> インターネット空間で偽・誤・真偽不明情報、なりすましSNSアカウント、誹謗中傷が広がり、社会の混乱や風評被害、不安や怒り等の感情に訴える扇動、詐欺や人権侵害等のリスクが高まっていることを受け、人権尊重の社会づくり条例を改正して相談者に対する県の支援内容を明確化させ、通信事業者や侵害情報の発信者に対する情報の削除要請の支援体制等を整えるとともに、「情報的健康とつとりプロジェクト」による県内企業等への啓発、ファクトチェックのスキル向上の取組や各種情報発信を行った。
6 スポーツ課	<b>世界陸上及びデフリンピック代表選手団の事前キャンプ等の受入れ成功</b> 東京2025世界陸上のジャマイカ代表選手団の事前キャンプの実施に当たり、トレーニングのサポートスタッフや宿泊場所等の手配、トレーニング機器の整備等、選手のトレーニングを円滑に支援し、ジャマイカチームの金1を含む10のメダル獲得に寄与した。その他、公開練習やジャマイカフェスの開催、幼稚園児や養護学校生徒との交流、小学生向けのアスリートクリニック等、県民がジャマイカの文化と食や世界最高レベルの陸上競技に触れる機会を創出するなど、キャンプ周辺の盛り上げを成功させた。 また、東京2025デフリンピックの開催に合わせてデフボウリング及びデフ柔道の韓国代表選手団の合宿を受け入れ、練習施設・設備や宿泊場所・食事等の手配、県内チームとの合同強化練習や聾学校との交流等を行った。大会では韓国チームは金3を含む計19個のメダルを獲得し、その結果に貢献した。
7 家庭支援課	<b>SNS・ネットトラブル等から青少年を守る体制整備</b> 青少年がSNSやインターネット等を通じて、闇バイトなどの犯罪や、いじめ・誹謗中傷、生成AIによる性的搾取に巻き込まれることを防ぎ、青少年を被害者にも加害者にもさせないため、青少年健全育成条例を改正し、保護者や学校関係者等が青少年のSNSの適切な利用方法の習得やペアレンタルコントロールに努めること、生成AIを利用して作成したものを含む児童ポルノ等の作成・製造・提供の禁止、禁止規定に違反した場合の氏名等の公表及び罰則について定めた。 その他、子どもたち自身の情報リテラシーを高めるための出前講座の実施や啓発資材の作成、被害に遭った場合の弁護士相談費用の支援等に取り組んだ。

表彰対象者	功績内容
8・防疫作業等に関係した全ての所属 ・畜産振興局家畜防疫課、畜産振興課 ・西部家畜保健衛生所 ・西部総合事務所県民福祉局、米子保健所、環境建築局、農林局、米子県土整備局 ・日野振興センター日野振興局、日野県土整備局 ・西部県税事務所 ・西部教育局	<b>高病原性鳥インフルエンザ発生に対する迅速な防疫の実施</b> 令和7年12月に発生が確認された家きん農場での高病原性鳥インフルエンザに対して、迅速な封じ込めとまん延防止を実施し、適切な防疫作業や正確な情報提供を行った。
9・鳥取県西部地域イネカメムシ対策会議 ・西部総合事務所農林局(農林業振興課、西部農業改良普及所、大山普及支所) ・日野振興センター日野振興局(農林業振興課農業振興室、日野農業改良普及所) ・経営支援課農業普及推進室 ・農業試験場環境研究室 ・病害虫防除所	<b>水稻害虫イネカメムシ防除対策による水稻被害低減</b> 令和6年5月に県、西部地区の市町村、JA等の関係団体、防除作業受託業者で構成する「鳥取県西部地域イネカメムシ対策会議」を設立し、出穗期に防除作業を実施する防除指針の提示と防除実施業者への働きかけ、イネカメムシの発生状況調査や早期の発生予察を行い、その結果等をSNS、HP、CATV、JA広報誌、ポスター等で情報発信して注意喚起や防除実施の呼びかけを行い、主要4法人の防除実施率はR5年度の17%から99%まで向上した。 また、効果的な防除方法の検証を実施して判明した防除方法やその重要性等を開く関係者に共有して防除を推進するなどした結果、取組開始前の2年前と比べ、令和7年度はイネカメムシの発生は9割近く減少し、斑点米被害は約2割減少して生産者の経営安定に大きく貢献した。
10・中部総合事務所県土整備局	<b>国道313号「北条倉吉道路（倉吉西IC～倉吉南IC）」の開通</b> 大規模災害時の緊急輸送や本県中部地域と岡山県真庭地方の生活圈連携強化の基盤となる国道313号「北条倉吉道路」について、インフラ整備の魅力や効果に関する情報発信により地域全体の機運醸成を図りながら、確実な工程管理及び関係者との綿密な調整を行い、令和7年3月22日に倉吉西IC～倉吉南IC間(延長3.8km)の開通を成し遂げた。

・カイゼン大賞の部(4件)

表彰対象者	功績内容
1【カイゼン活動部門:金賞】 技術企画課	<b>ボランティア交付金業務の進捗見える化・効率化</b> ボランティア交付金の出先機関における一連の事務について、技術企画課が業務分析やDB改修等を行った上で、東中西の所局内へ横展開を行い、見える化・効率化を図った。
2【カイゼン活動部門:銀賞】 林政企画課	<b>貸出備品リスト &amp; 備品貸出簿の一元電子管理</b> 森林・林業振興局内の貸出可能備品一覧及び予約簿の電子化(Excel)を行い、局内での一元管理を実現した。
3【カイゼン活動部門:銅賞】 関西ワールドマスターズゲームズ課	<b>スタッフ制及びライン制業務の明確化及び分類</b> 協議・決裁について、業務の性質ごとに、係長に確認を受けた後、課長が確認する「ライン制」と、担当者が直接、課長とやり取りする「スタッフ制」を使い分けることで、効率的な業務の進め方を実現した。
4【ひらめき提案部門】 ・西部若手カイゼンチーム ・農林水産政策課 課長補佐 桑村 和行	<b>公用車の環境改善</b> 職員の公用車運転に対する技術的・心理的な負担の軽減のためにカーナビ・バックモニターの標準装備を提案した。

○個人表彰4件

・一般業務の部(1件)

表彰対象者	功績内容
1 林業試験場木材利用研究室 上席研究員 桐林 真人	<b>有節スギ材の表層圧密技術の開発</b> 有節スギ材を床・壁の住宅内装材に利用する際の表面が傷つきやすい問題と、その抑制のための塗装で木の自然な手触りや温かみが失われるという問題の両方を解決するため、スギ板材の質感を損なわずにヒノキと同等以上の耐傷性能を持たせることができ、加工の際は節や年輪部分が浮き出る「浮造り(うづくり)加工」されたような高い意匠性も持つ技術を開発した。この技術は、令和6年2月特許として登録、令和7年5月に我が国の木材産業の発展に寄与すると評価され、第24回市川賞を受賞した。 特殊な機材を必要としないため、多くの事業者が活用でき、節のあるスギ材の付加価値化により木材利用の推進と山林所有者の所得向上に繋がることが期待されている。

・社会貢献活動・社会的功績の部(1件)

表彰対象者	功績内容
1 鳥取看護専門学校 教務主任 岡本 志保	<b>振り込め詐欺被害の未然防止</b> 令和7年9月20日、倉吉市内の銀行ATMにおいて電話をしながらATMの操作をしていた高齢男性を発見し、男性に声をかけて電話を代わってもらい、電話の相手方と直接話をした上で警察に連絡するなどの適切な対応を行い、詐欺被害を未然に防いだ。

・副業推進の部(1件)

表彰対象者	功績内容
1 財政課 主事 黒田 剛志	<b>部活動指導員として地域貢献</b> 公務に励む傍ら、練習自体に危険性があり、専門性も高く指導者が少ない投擲種目の部活動指導員として、県立八頭高校陸上部の運営に貢献している。 指導している高校生が秋の中国大会(新人戦)で優勝を飾ったり、インターハイや国民スポーツ大会への出場を果たしたりするなどの高い成績を収めるとともに、指導を行いながら自身も生徒とともに汗を流して研鑽を積み、国民スポーツ大会に円盤投げで出場するなど、競技力向上の相乗効果を生み出しており、副業を検討している職員のロールモデルとなっている。

・SNS「中の人」最多バズり賞(1件)

表彰対象者	功績内容
1 とっとり未来創造タスクフォース 係長 小谷 大輔 主事 秋山 遼佳	<b>SNS「中の人」育成プロジェクトにおける最多ビュー数の獲得</b> 大阪・関西万博のSNS「中の人」育成プロジェクトにおいて、開催期間中にミャクミャクやまんが王国を活用したXの投稿を繰り返し行い、プロジェクト最多のビュー数を獲得した。(両名による全ての投稿の獲得ビュー数合計:約166万ビュー)